

新型コロナワクチン予防接種説明書

新型コロナワクチン予防接種は接種日において満65歳以上の町民が対象

新型コロナウイルスによる感染症を発症すると、熱や咳など風邪によく似た症状がみられます。軽症のまま治癒する人も多い一方、重症化すると、呼吸困難などの肺炎の症状が悪化し、死に至る場合もあります。

新型コロナワクチンには、感染症にかかった場合の入院や死亡等の重症化予防効果があることが研究により確認されています。

なお、予防接種を受けても、発症等を完全には予防できないため、引き続き日常生活での適切な感染防止策が必要になります。

※接種費用の助成は年度内に1回です。

予防接種を受けることができない人

ご自身に当てはまると思われる場合、医師に相談してください。

- ・明らかに発熱している人（※1）
- ・重い急性疾患にかかっている人
- ・新型コロナワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の過敏症（※2）の既往がある人

（※1）明らかな発熱とは通常37.5℃以上を指します。ただし、37.5℃を下回る場合も平時の体温を鑑みて発熱と判断される場合はこの限りではありません。

（※2）アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状。

予防接種を受けるにあたり注意が必要な人

ご自身に当てはまる場合は、予診票に記入したうえで医師とよく相談してください。

- ・過去に免疫不全の診断を受けた人、先天性免疫不全症と診断されている近親者がいる人
- ・心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患がある人
- ・過去に予防接種を受けて、接種2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状が出た人
- ・過去にけいれんを起こしたことがある人
- ・新型コロナワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある人
- ・抗凝固療法を受けている、血小板減少症または凝固障害のある人

新型コロナワクチン予防接種の副反応

- ・主な副反応として、注射した部位の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等があります。また、稀に起こる重大な副反応として、ショックやアナフィラキシーがあります。接種後に気になる症状がある場合には、接種医やかかりつけ医に相談してください。
- ・ごく稀に起こる副反応として、mRNA ワクチン後に心筋炎や心膜炎を疑う事例やギランバレー症候群が報告されています。接種後に胸の痛みや動悸、息切れ、むくみ、手足の力が入りにくい、しびれ等の症状が現れたら、速やかに医療機関を受診してください。

予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- ・予防接種を受けた後、急な副反応が起こることがあります。15 分以上（過去にアナフィラキシーを含む重いアレルギー症状を起こしたことがある人や、気分が悪くなったり、失神等を起こしたことがある人は 30 分以上）、接種を受けた施設でお待ちいただき、体調に異常を感じた場合は、速やかに医師へ伝えてください。
- ・注射した部分は清潔に保つようにし、接種当日の入浴は問題ありませんが、注射した部位を強くこすらないようにしてください。
- ・通常の生活は問題ありませんが、接種当日の激しい運動や過度の飲酒等は控えてください。

予防接種健康被害救済制度について

予防接種では健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めて稀ではあるものの、なくすことができないことから救済制度が設けられています。

新型コロナワクチンの予防接種によって、健康被害が生じた場合にも、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金等の給付）が受けられます。ただし、その健康被害が予防接種によるものかどうか、国の審査会で審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付されます。

申請に必要な手続きなどについては、住民票のある町役場へご相談ください。

問い合わせ先

まんのう町健康増進課	Tel	7 3 - 0 1 2 6
琴平町子ども・保健課	Tel	7 5 - 6 7 1 9